

園内の花の見頃

⑫カキツバタ



5月上旬～中旬

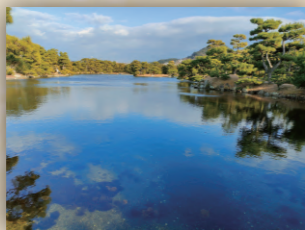
⑬あじさい



6月中旬～
7月中旬

⑪潮入りの池

養翠園は全国的にも珍しい海水を池に取り込んだ大名庭園です。この様式を潮入(しおいり)と呼び、2ヶ所ある水門を開閉することで海水の量を調整できるようになっています。池は約3,500坪に及び、海水を取り入れているため淡水と海水が混ざった汽水域に生息するイナヤハゼ、ウナギ、さらにはカモやサギなどの渡り鳥が遊びに来ます。



⑨⑩樋門(ひもん)

潮入(しおいり)の池の水位は樋門である⑨「薬研樋(やげんひ)」と⑩「三浦樋(みうらひ)」で調整します。潮の満ち引きを見ながら水を取り入れたり、排出したりする際に使います。薬研樋は御船蔵になっており、治宝をはじめ、来客がお見えになる際、船の停留所でもありました。



⑧御馬場跡(おばばあと)

供揃(ともぞろ)えの場所であり、行列を整えて出発する場なので細長い場所になっています。本来、門の近くにあるものですが船からの来客があった為、当園では共揃えの場として御馬場があります。



⑦刈込み松(金柑畑跡)

菓種畑として金柑を育てたと伝わる場所です。現在は刈込み松が植えられています。



バス駐車場

高燈籠

八千代亭跡

市施設

湊御殿

休憩所

受付

預かり御長屋

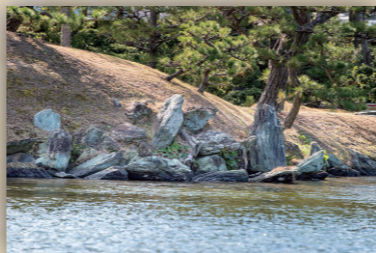
養翠亭

⑥狐山(きつねやま)

中国の西湖に狐山(こざん)という景勝地があり、それを模して狐も住める山ということで当園では狐山(きつねやま)と読んでいます。この狐山は不老不死の仙人が住む蓬莱山(ほうらいさん)を見立てています。



青石
石橋(御座の間より御馬場に渡る小さな橋)や護岸の石組は、紀州青石で構成されています。建造物には預かり御長屋の基礎石、養翠亭の基礎石、園内の飛び石にも多く使用されています。青石の特徴として板状で割れやすく加工しやすいことから庭石として古くから使われてきました。



黒松

養翠園は松を主体とした大名庭園です。約千本の黒松が植えられており、園名には三条公修(さんじょうきんおさ)(公卿・三条実美(さんじょうさねとみ)の祖父)が「松の翠(みどり)」を養(やう)園(えん)という意を込め「養翠園」と命名されました。大きな池の淵から枝を伸ばす松は水面に反射し、風情を感じさせます。

借景について



庭園内にある養翠亭・御座の間の正面に天神山(てんじんやま)、側面には章魚頭姿山(たこずしやま)を借景として眺望できます。海辺に位置しながら敢えて海の景色は取り入れず二つの山の景色を取り込んでいることが特徴です。

①夜泊石(よどまりいし)

蓬萊(ほうらい)へ向かう集団船(宝舟)が夜のうちに船溜りに停泊している姿を抽象的に表現したものです。日本庭園で主に使用される石組みの一つです。



②三ツ橋 ③太鼓橋

三ツ橋の架かる堤は、当時憧れの地であった中国の西湖(せいこ)に造られた堤防をイメージして造られました。現地にある直線的な堤とは違い、当園では折れ曲がりをつけることで池にアクセントを与えているのが特徴です。また守護神島に渡る堤には太鼓橋が架かっており、どちらも15代当主徳川頼倫によって土橋からコンクリートに作り変えられました。



④守護神島

池の中心には島(守護神島)があり、稲荷社と弁天社が祀られています。治宝が訪れた際は欠かさず参拝していたと伝えられている縁起の良い社です。治宝が宮司に依頼し京都の伏見稲荷からやってきたという伝承があります。毎年、旧二の午(うま)にお祭りをしています。こちらから園内を見渡す景色も見事です。



⑤鴨寄せ

池に付き出した場所で、当園では冬に渡ってきたカモを狩猟する場とされました。

